

人と人のつながりの大切さ

浦安市立堀江中学校2年 佐藤 杏奈

私は小学生の時、先生からこの学校に万引きをした人がいるという話を聞きました。その時の私は、どうして万引きをしたのだろう、私ならこんなことは絶対にしないのに、と、思った記憶があります。そして中学校でも、写真の拡散が問題になりました。この時も、どうしてそんなことをしたのだろう、と、私は疑問を持つだけでした。

今思えば、私は疑問を持つばかりで、実際に万引きをした人、写真を拡散した人の気持ちを想像したり、寄り添って考えるということはありませんでした。おそらく、万引きや拡散した人には何らかの理由があるでしょう。その理由について、万引きや拡散をした人の気持ちや状況や予想し考えることで、犯罪を起こした原因がわかってくるのではないかと思います。

例えば、お金がなく、最低限の生活をするにすら厳しい人がいたとします。もちろん、食べ物を買うお金も十分にありません。しかし、生きていくには食べ物は必要です。このままでは死んでしまう、となった時、その人は万引きをしてしまうかもしれません。この例のように犯罪をしなければ生きていられないという状況になり、結果的に犯罪を起こしてしまうことは十分にありえると考えます。犯罪をしなければならぬ状況を作っている原因をなくすことができれば、この例のような犯罪も減ると思います。そのためには、日々の暮らしに困っていることに周りの人が気づき、声をかけられる環境が必要です。

また別の例をあげると、とある宝石店の宝石を買った人がいましたが、その宝石は盗まれてしまいます。この時、盗んだ犯人は、達成感やうれしさを感じているはずです。その犯人は欲しいものをやっと手に入れることができたからです。この例のように、自分の欲を満たすために犯罪を起こしてしまうことも十分にありえると考え

ます。この二番目の例も一番目の例と同様に、周りに声をかけてくれる人がいれば犯罪を未然に防ぐことができるかもしれません。なぜなら、自分が罪を犯したらいつも声をかけてくれるその人が悲しむかもしれないという思いが芽生えたと考えられるからです。

ここまで二つの例をあげましたが、これらの例に限らず罪を犯した人は反省し、同じ過ちをくり返さないような方法を考えるべきだと思います。その方法として例えば、お金が十分になく万引きをしてしまった人は、就職やお金の使い方についてよく考えてみる、物を盗んだ人は、盗まれた人の気持ちや、逆に自分が大切にしているものを盗まれた時の気持ちを考えてみる、ストレスなどで人を殺してしまった人は、別のストレス発散方法を考えるなどの方法が考えられます。

一方で、罪を犯したことにより、まわりから差別や偏見を受けることも考えられます。罪を犯した人に対し、怖さや不安を感じる人がいると思うからです。だからと言って、差別や偏見をしてもよいわけではありません。差別や偏見により、ストレスがたまり、くり返し犯罪を起こしてしまうという悪じゅん環が生まれる可能性があります。そうならないために、犯罪者に対しての意識が変わるような対策や、けい務所から出た後に社会の一員となれるような環境づくりが重要だと思います。また、家族や友達、近所の方などからの明るい言葉がけも重要だと考えます。もし私が犯罪者の立場で、これからがんばっていこうと思っている時に、もし冷たい言葉をかけられたら、自分にはできないかもしれない、難しいかもしれないなどと消極的な気持ちになると思うからです。言葉は簡単に人を傷つける武器みたいなものだと思います。言い方を変えれば、自分や味方を守るためのものなどといったようになりますが、守るための言葉が誰かを傷つけてしまう可能性があると考えられるからです。だから、けい務所から出た後の環境づくりには、まわりからの言葉も大きく関係してくると考えます。

犯罪や非行のない地域社会をつくるには、

人と人とのつながりを大切にすることが大事だと思います。犯罪や非行をした人が立ち直りするにはまわりの人が犯罪者に対して、どう接するか、犯罪者は同じ過ちをくり返さないような方法を考えることが大事だと思います。つまり、人と人とのつながりや過ちをくり返さないという思いがあることによって犯罪や非行のない社会が作れ、うまく立ち直りできると考えます。